



News Letter



第8号

大阪日米協会 / JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel:06-6263-9753, Fax:06-6263-9773
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@takenaka.co.jp

秋の日帰り旅行

～奈良 法隆寺と平城宮跡大極殿～ 11月5日(土)

素晴らしい秋晴れに恵まれたこの日、約80名のご参加をいただき古都奈良を訪れました。法隆寺では管長のご講話に続いて、荘厳な西院伽藍を背景に記念撮影を行い、執事のご案内で境内を拝観しました。午後は平城宮跡に復原工事中の大極殿と資料館を見学。その後、山の辺の道周辺に足を伸ばし、三輪そうめん山本ではそうめんの手延べを体験しました。最後に訪れた大神神社では境内をご案内いただき、社殿で御祓いを受けました。盛りだくさんの一日でしたが、皆さんにちょっと知的な奈良探訪をお楽しみいただけたのではないのでしょうか。



堀口 界等 さん(豊中市)

まず私と夫のご紹介をしてから、初めて参加した大阪日米協会の遠足についてお話ししたいと思います。私が夫と出会ったのはニューヨークで弁護士をしていたことでした。今は夫と13歳になる息子と暮らしています。投資やビジネスの機会を探しつつ、日本についていろいろ学んだりして生活を楽しんでいます。夫は日本で医大を卒業し、精神医学を専門として25年間アメリカで過ごしました。現在は豊中市岡町でホリゲチクリニックの所長を務めています。奈良への旅は穏やかな晴天に恵まれ、忘れられない1日となりました。最初に訪れた法隆寺には奈良のシンボルとして知られる五重塔があります。管長は講話の中で、まずは自らの内なる強さを養い、そしてそれを他者と分かち合うようにと説かれました。境内にある宝蔵では、聖徳太子の生涯をうつしたという様々な像に惹きつけられました。それから春日ホテルでおいしい昼食をいただき、平城宮跡大極殿の復原に関するビデオを見ました。そのあと復原現場を訪れると、杉材を削る木の香に迎えられました。次に立ち寄った三輪そうめんでは、「エンジェルヘア」のようなそうめんの手延べを楽しく体験しました。最後は大神神社です。神主さんと花の頭飾りをつけた2人の巫女さんが神道の儀式を披露し、神道の神々について説明してくださいました。灯ろうのともった参道を歩いてバスに戻りながら、私はよく計画された旅行に満足し、参加者と知り合えたことをうれしく思いました。私に大阪日米協会を紹介くださった蒲カーリンさんに感謝しています。



(有)中村屋取締役 蛭原 恵美子 さん

このたびの古都・奈良への旅行。すばらしいお天気の中、まず世界最古の木造建築を誇る法隆寺では、管長様より特別講話を賜りました。その中の聖徳太子の「和をもって貴しとなす…」という言葉。和を持つことが出来たら、世の中の争いも現代の世界の争いも解決できるということでした。日本では千三百年前から最初の憲法第一条に述べられていることに驚き、日米協会の意義・目的に通ずるもので感慨深いものでございました。次に、いま再建中の平城京大極殿正殿の説明を受けました。現場では木の香りの中、若い宮大工さんが「ハッピー」を着て黙々と作業している姿を見て、日本建築が脈々と継承されていること、そして彼らに大和魂を感じ大変頼もしく思いました。その後「三輪そうめん」の本社見学では、素麺の作られる過程を漫才のような楽しい説明と、私達の中から選ばれたお二人の実演もあって皆様大笑いいたしました。最後に「大神神社」へ着いた時は、あたりがほんのりと暗くなり、参道の行燈には灯りがとまり、この世の世界とは思われない荘厳さに心が洗われる気持ちになりました。秋の一日、大和文化の一端に接し、遠い昔に思いをはせた感動の時を過ごさせていただきました。お世話いただいた皆様に心から感謝します。



スケジュール

2006年 1月20日(金) 18:00～

新年パーティー(リーガロイヤルホテル)

恒例の大阪日米協会と大阪・サンフランシスコ姉妹都市協会、大阪・シカゴ協会の共催の新年パーティーです。豪華商品の当たるくじ引きや楽しいアトラクションをご用意して、皆様の参加をお待ちしております。



日米協会ハリケーン災害復興支援 ご協力ありがとうございました

今年9月、ハリケーン被害を受けたアメリカ各地の日米協会への支援をお願いしましたところ、短期間のうちに1,324,580円の御寄付を頂きました。お預かりした寄付金の全額を社団法人日米協会に送金しましたことをご報告いたします。全国の日米協会から集められた寄付金は、ワシントンDCにある全米日米協会連合を通じて被災地の日米協会へ贈られます。改めて皆様の温かいご支援に心から感謝申し上げます。

大阪府知事がハリケーン被災者への哀悼の意を表明

去る9月2日、太田房江大阪府知事は、駐大阪・神戸アメリカ総領事館を訪れ、ハリケーン被災者への哀悼の意をダニエル・ラッセル総領事に伝えました。太田知事の哀悼の意は以下の通りです。「このたび、貴国で発生した超大型ハリケーンによる甚大な被害の報に接し、誠に心痛に堪えません。880万人府民を代表いたしまして、この災害で亡くなられた方々のご冥福と、被災された皆様方の一刻も早いご回復をお祈りいたしますとともに、心からお見舞い申し上げます。災害の規模があまりに大きく、未だに被害状況の全容については、明らかになっていないとお聞きしております。貴国におかれましては、一日も早く、被災地が復興し、人々の生活に平穏が戻りますよう心からお祈り申し上げます」また、同月29日にはラッセル総領事が大阪府庁を訪れ、太田知事と危機管理及び2008年サミットの関西誘致について熱心に意見交換を行いました。



駐大阪・神戸
米国総領事
ダニエル・ラッセル氏

ラッセル総領事のご挨拶

大阪日米協会は、長年にわたって2つの偉大な国の関係を強化するために極めて価値のある貢献を続けてこられました。新任の大阪・神戸駐在の米国総領事として、これまで大阪日米協会が果たされてきた指導力と、会員の皆さまに心からの敬意を表し感謝を申し上げます。かつて東京の大使館でマンズフィールド大使の補佐官を務めたとき、私は大使がしばしば「日米関係は他に比類なく世界で最も重要な二国間関係である」と言うのを聞きました。それから20年以上が経過しましたが、トム・シーファー大使も、日米両国の特別なパートナーシップの価値を強調し続けています。両国のパートナーシップ、同盟の力を強く継続させるには、大阪日米協会が進めておられる相互理解と交流が重要であります。大阪はユニークで生き生きとした特性を持つ特別の都市であり、その特性はアメリカ人の気質とも非常によく合っています。このことが、草の根レベルで良い関係と交流を進める上で、大阪日米協会会員の皆さんの働きを特別に効果的なものにしていきます。大阪日米協会のご支援は学術、文化、経済その他の分野に及んでおり、これにより日本人もアメリカ人もお互いに学びあい、共通の利益を分かち合うことができている。大阪での私の任務を始めるにあたり、竹中会長様はじめ大阪日米協会の役員、会員の皆さまに心より感謝を申し上げるとともに、皆さまの活動のために精一杯のご支援をさせて頂くことをお約束致します。



会員便り



生島 嘉章 さん
(猪名川町)

マンハッタンは正に人種のルツボであった。妻が車を使えるよう私は地下鉄で通勤した。担当エリアはNYを中心に北はボストンから南はフロリダ州という広さであった。子供達は日本人学校への通学を嫌がり始め、遂に地元の学校だけでの教育となってしまった。またたく間に4年が過ぎた。また突然「シカゴ支店へ行け」との命令。これで何と3度目の転勤である。妻もアメリカに慣れ、子供達も8割方アメリカ人になっていた。シカゴは気候は厳しかったが人々は温かった。妻と近くのテニスクラブに入会しプレーを楽しんだ。シカゴを最後に、アメリカ国内で3度にわたる転勤を経験して1980年に帰国した。子供達は「何故日本へ行かねばならないのか」と泣いて抗議した。東京支店へ帰り、探し回った末長女は可愛い2児の母、二男はガラス工芸作家としてそれぞれの道を進んでいる。3人とも「アメリカでの9年は今役に立っているよ」と言ってくれたのを何よりもうれしく思う。

アメリカ転勤族

アメリカとの関わりは「ロスアンゼルス事務所へ3年間の駐在を命ず」という辞令で始まった。1971年、31歳だった。6歳3歳1歳の3人の子供を連れて赴任したが「アメリカへ転勤」の意味が解っていたのは妻一人だった。全くの別世界で幼い子供達を抱えての生活は、私の仕事も大変だったが英語も不自由で車もない妻のストレスはもっと大変なものであった。幸いL.A.には大きな日系人社会がありこれが救いとなった。3年が過ぎ帰国の心準備を始めた時、突然「ニューヨーク支店へ転勤」の命令が来た。子供達は驚異的な早さで既にアメリカ社会に溶け込んでいた。



北村 有人 さん
(豊中市)

私の言語獲得・維持のヒミツ

私は日本で育ちましたが、母親がアメリカ出身で、両親は家庭内では我々子供たちのために英語で話そうに勤めていました。しかし、私の学校や地域の友達日本人なので日常生活の中ではどうしても日本語のほうが主に使われ、その割合は20〜30%英語で70〜80%日本語であったように感じられました。私は大阪の府立高校を卒業し、アメリカの大学(James Madison University, Virginia)へ進学することになりました。家庭で英語の準備は出来ていたはずでしたが、アカデミックな単語に対しては歯が立ちませんでした。今では、使い物になる英語を身につけることが出来ましたが、それを獲得するまで米大でみっちりしごかれてきました。帰国された方に「英語をいかに維持すればよいか」とよく尋ねられます。私の個人的な解決法は、「頭の中の思考をなるべく英語でする」です。そうすることにより英語を担当する脳細胞が常に刺激され、忘れる効果を減らせるのではないかと私は考えます。朝目が覚めて、最初に自分が思ったことが何語か、毎度気にしております。むしろ、最初の言葉が英語であるように意識しております。ところが、私の場合、英語で考えることにより、日本語の方がおかしくなるという難点を抱えています。大阪日米協会などでお世話になっている今、関西人といえども「〜やな」とか「〜てんねん」と話す訳にはいきません。ですから、友達と週2回ずつ、30分〜1時間ほど勉強会を行っております。彼は英語を勉強し、私は日本語の敬語を勉強しております。私自身の経験に基づいた個人的な結論は、「必要な状況に追い込まれない限り、言語は身につかない」です。そのような状況をいかに自分で作るかが、私にとっては言語獲得・維持のカギのようです。



松井 絵里 さん
(榎サクラクレパス 秘書)

事務局を担当して

英語を話すことが出来ない。アメリカに住んだこともない。アメリカの事を良く知らない。アメリカといえば、おぎなりの観光旅行で行ったことがある程度のかかわりでした。2年前、こんなないないづくしの私が、大阪日米協会の事務局を2年間担当する事になり、どうしよう？途方に暮れるばかりでした。そんな中、知らないアメリカの事を知るために、アメリカの方に日本をより知ってもらうために、会員の皆さんが楽しく交流できる場にするために、順次計画を練っていきました。終わってみれば、私にとってアメリカはとても近い存在になっていました。そして意外に知らない日本文化にも興味が高まりました。お友達もたくさん出来ました。皆さんにとっては如何だったでしょうか？さて、竹中工務店さんにバトンを渡し、現在、腕によりをかけてイベントを計画してくださっていますが、ご参加いただいていますか？是非、まず参加してみてください。参加することにより会員同士が顔見知りになり、お友達になり、交流が深まり、楽しい会になると思います。「一人で参加していても、なかなか交流ができないので面白くない」という声も耳にしましたが、そんなことはありません。会員の方々のお力添えを得て、会員皆で作りに上げていく会です。和気藹々、素晴らしい会に発展させていきましょう！！

会長のひとりごと

10月7、8日、ハワイはカウアイ島のグランド・ハイアットホテルで第33回日本ハワイ経済会議が約170名の出席者のもと行われました。代表世話人は日本側が三菱地所の福澤社長、ハワイ側はファースト・ハワイアン・バンクのドッツ会長で、ハワイの観光産業や日本とハワイの経済関係、さらにハワイ大学を中心として展開されるバイオサイエンス、ガン研究といった興味深いテーマについてスピーチやパネル討議が行われました。また、夜にはバンケットやハワイアン・ミュージックをはじめとする様々なアトラクションを通して交流を深めました。私も高校時代に学んだウクレレで「カイマナヒラ」と「ビヨンドザリーフ」を演奏させていただきました。今後のより一層の交流が期待できる会議でした。



<原稿について>

原稿締切：掲載希望月の前月20日頃

文字数：日本文⇒500文字程度

英文⇒250word程度

写真：できればデジタル画像が望ましい

送付：郵便、Fax、E-mailにて事務局宛送付

◆新入会員紹介◆

(敬称略)

法人会員

コクヨ株式会社

取締役社長 黒田 章裕

社長室長 岩野 秀昭

部長 外島 光雄

関西支社長 山野 道夫

久田 美香

個人会員

和田 修(神戸市)

小野 彰久(神戸市)

家族会員

和田 千雅子(神戸市)

山本 千代子(芦屋市)

香山 洋子(西宮市)

中西 玲子(西宮市)

須藤 正克(茨木市)

松浦 王香(豊中市)

西川 容子(大阪市)

増田 久美子(堺市)

投稿規定

大阪日米協会の会報誌への投稿(寄稿を含む)規定は次の通りです。

1. 投稿の原稿は日本語と英語でお願いします。
2. 投稿頂いた原稿は返却しません。但し写真やイラストはご指示に従い返却致します。
3. 投稿された原稿の選択と原稿の短縮や修正は大阪日米協会の判断にお任せ下さい。
4. 投稿される原稿は社会的・文化的・芸術的・国際的な、本会の目的に合う内容をお願いします。
5. 投稿者の中から抽選で粗品を差し上げます。発送をもって、発表に代えさせていただきます。

編集後記

新事務局での最初の大イベントの旅行が無事終わりました。ホッとするとその間の間、ラッセル総領事ご夫妻歓迎会に続いて新年パーティが開催されます。引き続き、皆さんに満足していただけるよう、日々がんばっています。その一方で、会員さんに米国の人が少なく、何とかせねばと思っています。米国、日本にかかわらず、お誘い合せの上、行事にご参加いただくと幸いです。会報誌への投稿も併せてお待ちしております。(事務局)



News Letter



Vol.8

大阪日米協会 / JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

4-1-13, Hom-machi Chuo, Chuo-ku, Osaka, 541-0053, Japan Tel : 06-6263-9753, Fax : 06-6263-9773
http://www.jaso-1946.com E-mail:jaso@takenaka.co.jp

Autumn Day Trip

- Nara: Horyuji Temple and Heijo Palace Site - November 5, 2005 (Sat)

We visited Nara, an ancient capital city of Japan, on this beautiful autumn day with about 80 participants. In Horyuji, we heard from the head priest, followed by a photo session with the magnificent temple buildings in the background and then a guided tour. In the afternoon, we saw the reconstruction project at Heijo Palace Site and exhibitions at the Museum. And then little side trip along Yamanobe Road known as a historical trail at the foot of the mountains. After the traditional noodle making demonstration at Miwa Somen, we visited Omiwa Shrine, where the Shinto priest welcomed and performed a Shinto ritual on us. We spent quite an intellectual and eventful day.



K. Horiguchi (Toyonaka)

I will introduce myself and my husband then tell about my first outing with JASO. I was working as an attorney in New York City when I met my husband. I live with my husband and 13-year-old son. I am looking for investment/business opportunities and to enjoy my life, including learning more about Japan. My husband graduated from medical school in Japan and spent 25 years in the USA specializing in psychiatry. He is head of the Seiry Memorial Psychoanalytic Clinic in Okamachi, Toyonaka, Osaka. The JASO outing to Nara was memorable. The day was still and sunny. 1st stop - Horyuji Temple with an ancient five-story pagoda, known as a symbol of Nara. A talk by a Buddhist monk encouraged each to cultivate one's own inner strength and compassion before sharing them with others. At a museum on the grounds I was drawn to statues of Prince Shotoku during various stages of his life. 2nd stop - a nice luncheon at Kasuga Hotel and a video of a reconstruction of Daigokuden Hall at the Heijo Palace Site. The aroma of cypress wood shavings met me as I joined the tour of the reconstruction - 3rd stop. 4th stop - an "angel hair" noodle factory. I enjoyed stretching the noodles to make them thin. 5th and final stop before returning - Omiwa Shrine. A Shinto priest performed rituals as did two ladies in flowered headdresses. The Shinto Deities were explained. Walking back to the bus by the lanternlit path, I was contented with the well-organized trip and was glad to have met some people. I thank my friend Karin Gama for introducing me to JASO.



Emiko Ebihara, Director, Nakamuraaya

We took a trip to Nara, an ancient capital city, on this wonderful sunny day. At Horyuji Temple, which is famous for the oldest wooden structures, the head priest gave us a lecture. He mentioned that Prince Shotoku said "Consider Harmony 'Wa' as the most valuable" in article 1 of the Seventeen Article Constitution and emphasized that if people keep that in mind, domestic and worldwide conflicts can be solved. I was impressed by the fact that the Japanese had such a principle in the first article of their constitution 1,300 years ago. I believe the purpose of JASO shares this philosophy. Next, we heard a presentation about Daigokuden, which is under reconstruction at Heijo Palace Site, and then we visited the site. In the aroma of wood, I watched young carpenters in traditional outfit work on the lumber and I felt proud of the young men carrying on the traditional skills of Japanese architecture as well as Japanese spirit. At Miwa-Somen we laughed a lot at the humorous demonstration of the noodle making and the performances of the two of our members who tried it. When we finally arrived at Omiwa Shrine, it was beginning to get dark and the lanterns on the path to the shrine was lit. Its divine atmosphere made me feel purified. I spent a wonderful autumn day getting a glimpse into traditional Japanese and Nara cultures and reflecting on the ancient days. I thank all concerned for a great trip.



Upcoming Events

December 20, 2006 (Fri) / 6 p.m. -

New Year's Reception at Rihga Royal Hotel

Annual party co-hosted by Japan-America Society of Osaka, Osaka-San Francisco Sister City Association, and Osaka-Chicago Association. Enjoy fun attractions and win a great prize in the lottery!



Thank You for Your Support For Hurricane Reconstruction Aid

We raised a total of 1,324,580 yen for reconstruction assistance for the Japan-America Societies in hurricane-affected areas. The donations were sent to the America-Japan Society in Tokyo. All the donations collected from Japan-America Societies in Japan are to be distributed to the Japan-America Societies in hurricane-affected areas through the National Association of Japan-America Societies in Washington DC. We deeply appreciate your kind contributions.

Osaka Governor extends sympathy to Hurricane sufferers

Governor Fusae Ohta of Osaka Prefecture visited the American Consulate General Osaka-Kobe and extended condolences for Hurricane Katrina victims to Consul General Daniel Russel on September 2. Governor Ohta delivered the message: "It caused us great sorrow to hear the news of the serious havoc caused by the huge hurricane. On behalf of the 8.8 million people of Osaka, I pray for the souls of those who lost their lives. I would like to extend my heartfelt sympathy to those suffering, and wish for their swift recovery. The scope of damage is so extensive that the whole picture has not become clear to us yet. May the affected areas be speedily restored and peace return to the lives of the people." On September 29, Consul General Russel made visit to the Osaka Prefectural Government and exchanged opinions on the subjects like crisis management and the Kansai region's bid for the G8 Summit with Governor Ohta.



Mr. Daniel Russel
Consul General
of the United States
of America
Osaka-Kobe

members particularly effective in promoting good relations and contacts at the grassroots level. JASO's support has extended to academic, cultural, business and other areas in which Americans and Japanese can learn from each other and share common interests. As I begin my assignment in Osaka, I wish to offer heartfelt thanks to the officers and members of JASO, beginning with Mr. Takenaka, and promise to lend my fullest support to your important work.

CG Russel's message to JASO

Over many years JASO continues to make an extremely valuable contribution to strengthening the bilateral relations between our two great countries. As the newly arrived US Consul General I want to express my respect and appreciation to JASO's leadership and members. When I served in Tokyo as Ambassador Mike Mansfield's assistant, I often heard him say that the US-Japan relationship is the most important in the world -- "bar none". More than twenty years later, Ambassador Tom Schieffer continues to underscore the value of this special partnership. The strength and durability of our alliance rests on the mutual understanding and the exchanges promoted by JASO. Osaka is a special city with a unique and vibrant character that fits very well with the American character. That makes the work of JASO



Member's Column



Yoshifumi Ikushima
(Inagawa)

Transfers in USA

My connection with the United States started with a transfer notification that assigned me a three-year posting at the Los Angeles office. It was in 1971 when I was 31 years old. I moved to the States with my wife and three children of 6, 3 and 1-year-old, and none of them really understood what "moving to the States" meant except for my wife. I did have a hard time working out there, but life in a totally different environment with little children to look after was even more stressful for my wife. She spoke little English and didn't have a car. Fortunately, there was a large Japanese community in LA and it helped a lot. Three years had passed and we were beginning to

prepare for return to Japan when I suddenly got a transfer to New York. Our children had fit into American society surprising fast. Manhattan really was an ethnic melting pot. I commuted by subway so my wife could use the car. I was in charge of a huge area from Boston in the north to Florida in the south, though mainly around NY. Our children became reluctant to go to Japanese schools and eventually came to study only at local schools. Four more years flew by and again I got a sudden transfer to Chicago. That was the third relocation! By then, my wife was used to the States and my children were almost like American. In Chicago, climate was harsh but people were kind. My wife and I joined a tennis club in the neighborhood and enjoyed playing. Finally, we came back to Japan in 1980 after three relocations in the States. Our kids protested in tears, saying, "Why do we have to go to Japan?" When I settled back into the Tokyo branch, I looked everywhere before I found a good school that accepted returnee children. Now, 25 years later, each of our children is following their own path: the elder son with Toyota USA, the younger son as a glass artist, and the daughter with her two little kids. I am very happy to hear all of them say that the nine years in the United States is a great asset for them.



Eri Matsui
(Secretary, Sakura
Color Products Corp.)

My Two Years at JASO Office

Didn't speak English, had never lived in the United States, and didn't know much about the country, either. What little experience I had with the States was only a short sightseeing tour. I was at a loss two years ago when I was told to work at the executive office of JASO for two years. What can I do to get to know about the United States, to let American people know about Japan more deeply, to encourage our members interact with each other and have fun? With these thoughts in mind, I worked on planning events one by one, and in the end, the United States has become very close to me. And I am interested in Japanese culture, which I didn't know very well myself, more than ever. I also made a lot of friends. How were these two years for you?

Now the baton is in the hands of Takenaka Corp. They are working hard to plan good events. I hope you are joining them. If you aren't, just give it a try. Once you join an event, you meet new people, make friends, and make our gatherings more enjoyable. You might say, "If I join alone, I'll have no one to talk to and it won't be much fun." Please don't say such a thing! Your participation and support make this society alive. Let's make it a happy wonderful society together!



Eugene S. Kitamura
(Toyonaka)

It Ain't Easy

I grew up in Japan. Since my mother is from the USA, my parents tried to create an English-speaking environment at home so that their children could learn English. However, my friends at school and in the neighborhood were Japanese. Therefore, Japanese was used more, about 70 to 80%, in daily life. I graduated from a public high school in Osaka. I attended James Madison University in Virginia, USA. I had a difficult time adjusting to the academic English language at the university. Fortunately, my English has improved significantly. But it required a lot of hard work. Some returnees have asked me if I have any good ideas for maintaining the English language which they acquired. My solution is to think in English as much as possible. This way, the brain cells responsible for the English language are constantly stimulated, and you are less likely to forget the language. I always pay attention to the first words that come into my mind in the morning. I make an effort so that the first words are in English. This effort has a downside to it. My Japanese competency is sacrificed because of my effort to maintain English. Since I attend formal events of JASO, I must not talk with a Kansai dialect at such occasions, even though I live in this area. Therefore, I am currently making an effort to meet with a friend twice a week for about 30 minutes to an hour to study "languages". He studies English and I study the Japanese polite language. Based on my experiences, my conclusion about learning languages is that "I will not learn a language unless I am in a situation that requires me to learn it." How to create such situations seems to be the key for me to learn and maintain languages.

Soliloquy

The 33rd annual Japan-Hawaii Economic Council meeting was held at Grand Hyatt on the Kauai Island on the 7th and 8th of October. About 170 people attended the meeting. The chairman on the Japanese side was Mr. Fukuzawa, president of Mitsubishi Estate, and the Hawaiian side was Mr. Dods, chairman of First Hawaiian Bank. The meeting contained presentations and panel discussions on interesting topics such as Hawaiian tourism industry and economic relations between Japan and Hawaii, and about research projects centered on the University of Hawaii including bioscience and cancer research. There was a banquet at night. We enjoyed Hawaiian music and other attractions and I made new acquaintances. I myself played "Kaimana Hila" and "Beyond the Reef" on the ukulele, which I learned to play in high school. It was a great meeting with good prospects of further friendship and exchanges.



Flow of News Letter to be published

Dead Line of Contribution : 20th day of previous month for planned publication
Number of words : Japanese ⇒ about 500 characters
English ⇒ about 250 words
Photograph : Digital picture if possible
Dispatch Method : Mail, Fax or E-mail to JASO office

Contribution rules

Contribution rules on the JASO News Letter

- The following are the contribution rules to the JASO News Letter.
- We would appreciate it, if you would write your manuscript both in English and Japanese.
- The contributed manuscript will not be returned to you. However, we will return the photographs and illustrations if you wish.
- Please understand that the JASO Office will judge the selection of the manuscripts among those submitted and also for editing.
- The manuscript distributed will be in accordance with the aims of the Society, i.e., social, cultural, artistic and international events.
- Contributors will be awarded gifts, picked by lottery.

New members

Corporate Members

KOKUYO CO., LTD.

President Kuroda, Akihiro
Department Manager Iwano, Hideaki
Group Manager Sotojima, Mitsuo
Kansai Branch Manager Yamano, Michio
Hisada, Mika

Individual Members

Wada, Sam (Kobe) Ono, Akihisa (Kobe)

Family Members

Wada, Chikako (Kobe) Sudo, Masakatsu (Ibaraki)
Yamamoto, Chiyoko (Ashiya) Matsuura, Kimika (Toyonaka)
Koyama, Yoko (Nishinomiya) Nishikawa, Yoko (Osaka)
Nakanichi, Reiko (Nishinomiya) Masuda, Kumiko (Sakai)

Notes The first big event as the new executive office, the Autumn Day Trip, finished successfully. However, we have little time to relax. The New Year's Reception is coming up, following the Welcome Reception for CG and Mrs. Russel. We are doing our best to meet your expectations. Our concern right now is that we don't have many American members in JASO. Please invite your friends, American or Japanese, and join our events! And your contributions to the news letter are always welcome! (JASO Office)